

東日本大震災 応援給水第二班支援内容

平成 23 年 3 月 18 日(金)

午前 7 時

岩手県盛岡市へ向けて、応援給水第二班の 6 名が出発しました。

茨城県河内町から岩手県盛岡市までは、東北道を走って 520 km 程度の距離があるため、通常時でも移動に丸一日がかかる距離です。しかし、福島県の前年事故の影響で東北道、磐越道が通行禁止となったため、埼玉県に逆戻りしてから関越道、秋田道を通る日本海側ルートを選ばざるを得ませんでした。

このため、移動距離が 860km と長くなるだけでなく、前日からの寒波の影響を受けた日本海側の雪道を移動する過酷なルートとなりました。また、燃料の確保もままならず、サービスエリアごとにガソリンスタンドで給油が可能か確認をするため、移動に余分な時間が必要となりました。

午後 8 時 30 分

茨城県河内町から 540km 先の山形県鶴岡市に到着、本日はここで宿泊し、明日以降の移動に備えることとしました。

平成 23 年 3 月 19 日(土)

午前 8 時

岩手県盛岡市へ向けて山形県鶴岡市を出発。

午後 3 時

前日からの移動距離 860 km を走破し、盛岡市新庄浄水場に到着しました。

到着後、すぐにでも、被災地に入り応急給水活動を行う予定でしたが、岩手県内の被災地の状況として水道施設の復旧に一定の目途がついた場所もあり、応急給水活動について全体的に縮小することと、日本水道協会から待機するよう指示が出ました。



盛岡市新庄浄水場の様子。
日本水道協会関西地方支部加盟の応援市の拠点となった場所です。
被災された方々に応急給水を通じて少しでも役に立ちたいという思いでしたが、待機という事態に陥り、職員はやきもきました。

平成 23 年 3 月 20 日(日)

被災地の応急給水の活動状況等の情報共有の場として、各応援市で構成される調整会議(午前 9 時からと午後 7 時 30 分から毎日 2 回実施)に参加。この日の調整会議において、堺市の担当区域が大船渡市に決定しました。

大船渡市は津波の被害が大きかった地域です。また、盛岡市から大船渡市までは 120km 程の距離があるため、堺市は明日からの拠点を大船渡市から 70km 程の距離にある奥州市水沢に移すこととなりました。

平成 23 年 3 月 21 日(月)

午前 7 時 30 分 盛岡市を出発し、大船渡市へ向かいました。

午前 11 時 30 分 大船渡市役所へ到着、大船渡市は言葉を失うような被害状況でした。

午後 1 時

大船渡市末崎町で給水活動を開始。給水を受けにこられている人数にもよりますが、1 か所あたり 30 分程度の給水活動を実施し、人がいなくなれば次の場所に移動しました。

【堺市の活動状況】

4t車給水 1 回、2t車給水 1 回

給水合計 2 回、6t

給水場所・・基石コミュニティセンター、三十刈公民館、基石公民館、大豆沢バス停、中井伝承館、愛宕神社、小田梅神コミュニティセンター、丸木バス停、末崎小学校、他一ヶ所

午後 7 時 30 分 業務終了



大船渡市末崎町 門の浜漁港周辺の状況。

港から近い低地において特に津波による深刻な被害が見受けられました。この周辺地域では場所によっては 1~2 キロ先まで津波による被害が確認されました。

平成 23 年 3 月 22 日(火)

午前 6 時 30 分 業務開始

【堺市の活動状況】

4t車給水 2 回、2t車給水 2 回

給水合計 4 回、12t

給水場所・・基石コミュニティセンター、三十刈公民館、基石公民館、大豆沢バス停、中井伝承館、愛宕神社、小田梅神コミュニティセンター、丸木バス停、末崎小学校、他一ヶ所

午後 7 時 30 分 業務終了



末崎小学校での応急給水の様子。

被災された方々がこの小学校で避難生活を送られていました。

写真左奥に写っている貯水槽に加圧給水を行いながら、水を取りに来られた方々にも、給水タンク車から直接給水を行いました。

平成 23 年 3 月 23 日(水)

午前 6 時 業務開始

【堺市の活動状況】

4t車給水 2 回、2t車給水 2 回

給水合計 4 回、12t

給水場所・・・基石コミュニティセンター、三十刈公民館、基石公民館、大豆沢バス停、中井伝承館、愛宕神社、小田梅神コミュニティセンター、丸木バス停、末崎小学校、他一ヶ所

午後 7 時 業務終了



写真は拠点の奥州市水沢から大船渡市へ向かう国道 397 号線。凍結した路面を重量のある給水タンク車による山越えは、困難を極めました。

被災地に給水タンク車を届けるという使命のもと、この道を時速 20km 程度で走行し、スリップしないよう細心の注意を払い運転しました。



三十刈公民館前での給水活動の様子。

近辺の公民館にも被災された方々が多数滞在されていました。

三十刈公民館の仮設風呂用のタンクへ給水するため、加圧給水を行うとともに、被災者の方々に応急給水を行いました。



個人宅前での給水活動の様子。

毎日午前 9 時過ぎに、この場所において給水活動を行っていました。被災された多数の方々が給水タンク車の到着を待っておられました。

混雑したときは、被災された方自らが給水を行っていただきました。

また、私たちの給水活動に感謝のお言葉もいただき恐縮しました。